

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100774		
法人名	社会福祉法人 信和会		
事業所名	グループホーム スマイル		
所在地	宮崎県宮崎市大字島之内2752番地		
自己評価作成日	平成28年10月15日	評価結果市町村受理日	平成29年1月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kagokensaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2015_022_kanistrue&jigyosyoCd=4590100774-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成28年11月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所周辺は、田畑が多くあり、自然の中でゆつくりと生活出来る環境である。又、少し足を延ばすと商店や駅があり、必要な物品購入や交通手段も整っている。敷地内には特別養護老人ホームやデイサービス、在宅介護支援センター等があり、事業所が孤立せず、他事業所から協力を貰える体制が整っている。事業所内は、木材の温かみを感じられる造りとなっており、天井は吹き抜けで、圧迫感を感じる事が無く生活出来る共有スペースを確保している。夜間帯は、警備保障会社のセキュリティにて安全確保を行い、警備保障会社の火災監視システムを導入する事で火災の際の応援体制も整っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

敷地内に、介護福祉施設、デイサービス等の法人施設があり、各施設や事業所は独立しているが、食事や防災訓練、災害時、職員研修など、事業に関する協力体制を整えている。地域との関わりについて、運営推進会議での意見を基に、ボランティアを受け入れたり、火災時の地域住民の協力を進めている。本人及び家族も含め、外出の機会を増やし、社会性の維持、向上に努めている。職員の資格取得講座を法人内に開設し、働く意欲と資質の向上を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念とスマイル理念を掲げ、誰もが見れる場所へ掲示を行い、毎朝、唱和をしている。職員間で理念を共有出来る様に意識付けしている。	グループホームの基本方針というべき地域密着型の意義、ホームが目指すサービスの在り方について見直した理念を掲げ、管理者と職員で共有し、日々の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区のスーパーへ買い物へ出掛けたり、食事処での食事、文化祭や福祉祭り等への参加を行っている。又、地域住民の方を事業所内に招き、入居者・地域住民の方との交流も実施出来ている。	利用者が地域のイベントに参加したり、買い物等で外出するだけではなく、ホームを訪問しハーモニカで懐かしい歌を演奏する地域の人もある。更なる地域との交流を目標達成計画に挙げ、実践に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方に対する取り組みやグループホームについて話す機会はあるが、地域の人々に向けての支援は不十分である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の様子や取り組みが分かる様に資料を作成し、毎回、報告を行っている。事業所で抱えている改善事項等についても、伝える様にし、構成員の方それぞれの立場で意見を頂き、今後のケアに活かせる様に取り組んでいる。	会議のメンバーは、地域を熟知した多くの委員で構成されている。家族や利用者も参加し、地域との交流や防災訓練など、ホームの課題を協議し運営に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所内において、発生した課題や取り組みについて不明な点や助言を頂きたい際には、担当者へ連絡を行い、解決において取り組める様にしている。	市の担当者とは、ホームに関する規則や運営上の相談・解決に向けて、双方向的な協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束において定期的に勉強会を開催している。勉強会と現場でのケアがしっかりと実践出来る様に日々のケアの中でも場面毎の指導を行っている。	職員は内外の勉強会や研修に参加して、身体拘束の弊害について学び、理解を深めている。見守りを重視した取組で、身体拘束のないケアに全員で取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会へ参加を行い、参加した職員からの伝達講習を実施し、職員間で情報を共有出来る様に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中でこれらの制度を利用されている方はおられないが、今後、制度の活用が必要な方がいないか家族等の現状を把握し、必要性がある場合には、それらを活用出来る様に支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やご家族の不安、疑問点等を聞ける様に配慮している。契約や解約、改定等の際には御家族へ十分な説明を行い、納得、同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望を伝え易い様に利用者やご家族との日頃からの信頼関係を構築出来る様に努めている。頂いた意見に対しては、今後のサービスへ繋げる事が出来る様に取り組みを行っている。	利用者を担当する職員は、日々の会話、食事や入浴は思いを把握する機会と捉えている。家族の協力を得て、会話では得られなかった情報や要望を運営に反映できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の部署会議や必要に応じて会議を開催する等、意見や提案を聞く機会を設けている。又、事業所内にて解決が難しい事項や改善を要する事項に関しては、代表者からの助言やアドバイスを頂いている。	毎月1回開催している定例会議の中で、職員から外出の効果についての意見があがり、利用者の「行きたい所、食べたい物」の把握に努める一方、法人からもマイクロバス等の援助も得た結果、外出回数が増えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日頃の努力や勤務状況について報告を行う環境が整っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・外の研修会へ参加する事が出来ている。職員の経験年数等に応じた研修会への参加も出来ている。又、職員自ら参加したい研修等がある際には、勤務の調整等の配慮をする事が可能であり、学ぶ機会に対して支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内職員との交流会や勉強会への参加を行い交流を図っている。宮崎県のグループホーム連絡協議会へ入会し、勉強会や意見交換会への参加を行い、質向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事や不安に思っている事を聞く機会を設け、安心して入居して頂ける様に心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談があった段階でご家族や本人との面接、施設見学をして頂き、その際に、ご家族が困っている事や不安な事を聞き取れる様に心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族・担当ケアマネージャーとの面談を通して本人が必要としている支援を見極める事が出来る様に取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者と過ごす時間を大切にしている。一緒に過ごす時間を大切にする事で本人の喜怒哀楽を共にする事が出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、本人とゆっくり過ごせる空間を確保している。行事の際に一緒に過ごす時間を設けたり、面会時には近況の報告を行い、ご家族と本人が疎遠の関係にならない様に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出支援を行っている。その中で以前、生活をしていた場所や地域への訪問、馴染みの人との面会等を行っている。又、友人・知人との手紙のやり取りや事業所への面会等を行い、関係が途切れない様に支援している。	家族の協力も得て、面会、外出、外食など、個々の利用者に必要な支援をしている。地区の文化祭や福祉祭りへの参加、家族へ年賀状を出す支援を担当職員が行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立している利用者がいない様に職員が利用者の間に立ち、関わりが持てる様に支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約期間が終了しても困っている事や相談がある際にはいつでも連絡をして頂ける様に話をしている。退去後は、次の施設や病院、自宅等へ訪問をしている。利用契約終了後もフォローが出来る様にご家族と連絡が取れる体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の日頃の表情や行動・ご家族からの情報をもとに意向の把握に努めている、又、職員は、共に生活を行う中で馴染みの関係を構築し、何でも話し易い様な雰囲気になる様に努め、本人の希望や意向を聞き取れる様にしている。	利用者担当の職員が、思いや意向、暮らし方の希望等を表情や聞き取りから、また、家族や関係者から情報を収集するなどして把握に努めている。職員間で情報の共有を図り、利用者の希望に沿えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の担当の介護支援専門員、施設関係者、ご家族、本人からの情報をもとに生活歴や馴染みの暮らし等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のケース記録や各チェック表等を活用し、現状の把握に努めている。又、職員間で情報を共有出来る様に申し送りノート等の活用も行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族の意見を取り入れた介護計画を作成している。職員間や担当者から情報や意見を収集し、介護計画に反映しており、定期的な見直しとともに、状態変化があった際の見直しも行っている。定期的な評価も行っている。	本人や家族と十分話し合い、意向の実現と継続のための介護計画を作成している。定期的にモニタリングと短期目標の評価と見直しを行い、チームの合意と共有を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録を活用し、日々の記録を行っている。気づきや取り組んだ内容等も記録として残す様にしている。職員がいつでも閲覧出来る様に生活日誌・個人ファイルを活用し、状況を確認出来る様に配慮している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況を踏まえて、その時のニーズに応じて敷地内の他事業所への相談や入居前の担当介護支援専門員への相談等を行っている。		

宮崎県宮崎市 グループホームスマイル

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣地域への行事、近所の食事処での食事、奉仕活動への参加、民生委員の方が訪問して下さり利用者との交流等、地域の中で生活が送れる様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を大切に、入居後も継続出来る様に配慮している。夜間の急変時の対応や突発的な病状変化の際の対応方法についても主治医への相談が出来る。その時々状況に応じて医療が受けられる様に支援している。	入居前のかかりつけ医を主治医として継続する方向で、往診はなく、家族や職員が同行して受診している。定期的な受診や急変時に対応した支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の生活において、病状の変化や気付いた事等、看護職へ報告を行う様にしている。緊急を要する場合で事業所内の看護職が不在の際には、敷地内の看護職へ相談出来る体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	個々のかかりつけ医との連携が図れる様に日頃から本人の情報を提供し、状況に応じて相談出来る環境・体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際や本人の状態に応じてご家族へ状況を説明し、事業所で出来る事と出来ない事について説明を行っている。主治医への定期的な報告を行う事で状態変化があった際に、相談・対応出来る様な体制が整っている。	現在のホームの状態では、看取りに必要な体制は整っていないが、介護で対応できる状態の支援は可能であることを説明している。家族の意向に沿った終末期に向けた入院や入所を含めて、相談等や支援を行う体制は整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員で話し合いを行い、事業所内のマニュアルを作成し、いつでも見れる様に配置している。又、定期的な勉強会を開催し、マニュアルの見直しも行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の災害避難訓練以外に、火災、地震・津波等の訓練を実施している。今年度も地域住民の方へ参加依頼を行い、訓練を実施する予定である。事業所内において、年間計画を立案し、1ヶ月1回の勉強会開催を行っている。各事業所との1ヶ月1回の定期会議を開催し、情報が共有出来る様に協力体制を築いている。	手作りの頭部保護具を使用して、地震や津波の想定訓練を行っている。消防防災避難訓練は法人全体で年2回実施している。法人合同の防災会議で夜勤時の応援体制や避難場所、備蓄の共有等がなされている。自治会長を通して地域住民の訓練参加や災害時の応援を依頼している。	地域住民に火災発生時の具体的な協力内容や分担事項を示して、協力してもらえるかを確認し、協力者間に連絡網を設置したり、訓練へ参加してもらうなどの対策を講じることを期待したい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねないケアを心掛けて日々のケアを行っているが、職員が少ない時間帯や業務が立て込んでいる時間においての言葉かけや対応が出来ていない事があるが、出来ていない場合には職員間で声を掛け合い、改善出来る様な話し合いを行っている。	職員は利用者一人ひとりの尊厳とプライバシーの保護について理解している。指導が必要になる場面がある時は、気付いた職員が指導し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話や余暇時間等を活用し、本人の希望や好みを聞きだし、自己決定された事を実現出来る様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々のペースを大切にし、望んでいる生活が送れる様に支援しているが、職員の業務を優先する場面が見られる為、現在、職員間で業務の見直しを実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類を選択出来る様に支援している。外出時や行事等へ参加する際には、化粧や衣類を着替えたり等、おしゃれや身だしなみを整える事が出来る様に支援している。又、化粧をする事が日課となっている入居者の方への支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の中で好みの食べ物やその日食べたい物等を聞き出す様にし、提供出来る様に支援している。季節感を感じる事が出来る様な献立の工夫も行っている。食前の準備や食後の片付け、調理の手伝い等、個々が出来る範囲での役割分担を行っている。	朝、昼食は法人の厨房で、全炊飯と夕食、おやつをホームで調理している。献立に好みの物を反映しているが、夕食を変更したり柔軟に対応している。バンダナとエプロンを着け、配・下膳など、できることに参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自宅や入所されていた施設等から普段の食事量や嗜好を確認している。その方の習慣を大切にし、使い慣れた食器類の持ち込みをお願いし、使用して貰っている。体調の変化によって、食事量等に変化があった場合には、敷地内の栄養士へ相談出来る体制が整っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施する事が出来ている。口腔ケアの際に、職員が口腔内の観察を行い、異常があった場合には、歯科医への相談を行っている。又、個々に合わせた口腔ケアの物品を使用して貰っている。		

宮崎県宮崎市 グループホームスマイル

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員の日頃のケアにおける気付きや情報の共有、排泄チェック表を活用し自立に向けた支援を行っている。支援を実践する事によって、尿取りパットやリハビリパンツの使用が減り、トイレでの排泄が出来る様になった事例もある。	排せつの自立習慣を継続するよう、チェック表を活用し、パターンやサインに注意し、可能な限り昼夜共にトイレでの排せつを支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段の生活において、運動や水分補給、便が出易い食べ物の提供を行い、便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を希望されればいつでも対応出来る様に配慮をしている。入浴の際には、個々が楽しめる様な雰囲気を作り、1人1人のペースや入浴方法で対応している。本人の希望に柔軟な対応をする事で入浴拒否の方がスムーズに入浴出来る様になった事例もある。	入浴ごとにお湯を替え、浴槽に浸れる特殊浴槽を使用している。見守りや部分又は全身介助を行いながら、利用者との会話から、思いを引き出す場にもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や状況に応じて日中に休息の時間を設定する等、配慮している。又、日中は、活動的に生活が送れる様に支援する等、夜間安眠が出来る工夫を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用等、全職員が把握する事は出来ない為、いつでも、誰が見ても分かる様にファイルを作成し、いつでも閲覧出来る様にしている。又、病院受診の際には、日々の生活状況や状態の変化等、情報提供を行い、治療や服薬調整に活かしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や日々の生活状況を見て、本人の得意な事を取り入れ、それが本人の役割になったり、楽しみごとの1つになる様に支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望により、戸外に出たり、故郷ドライブ・買物等へ出掛けている。普段の会話の中で聞き出した希望を実現出来る様に、ご家族の協力や生活していた地域の人の協力を頂き、希望が実現出来た事例もある。	年2回ほど、法人のマイクロバスに家族も同乗し、花見や観光、外食に出掛けている。数人ごとのドライブや買い物、個人の外出などは家族にも協力を依頼して、希望に沿えるよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望がある方には、ご家族へ相談を行い、個人の財布を準備して頂き、買い物等の際にはその中から支払いをして貰っている。又、食材の買い出しの際にも、支払いをして貰う等、お金を使える様な支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話をかける事が可能である。友人・知人からの手紙は本人へ手渡しし、読んで貰っている。やりとりが出来る様に配慮しているがやり取りするまでには至っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木材の使用や、天井も吹き抜けとなっており、開放的な空間となっている。又、季節感を感じる事が出来る様な展示物の掲示等、飾り付けの工夫も行っている。実際にそれらを見て今の季節を感じる事が出来ている場面も見られる。	玄関では手指消毒を行い、細菌対策を徹底している。花細工の壁絵を利用者と一緒に作成し、季節ごとに貼り替え、季節の移ろいを感じてもらおうよう工夫している。トイレは居室と色を変えた引き戸仕様で間違えにくく、プライバシーにも配慮している。トイレは清潔で臭気もなく、車椅子を使用しても十分な広さである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間において、和室やソファの配置等を行い、それぞれ気の合った利用者同士と一緒に過ごせる居場所の工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・ご家族と相談しながら自宅で使用していた馴染みの物や大切な品、写真等を持って来て頂く様に話をしている。今までの生活で行ってきた事をここでも継続出来る様な環境を整えており、個々の生活スタイルを取り込む事が出来た思い思いの空間である。	家族と相談しながら、利用者の希望や個性を生かした部屋づくりを支援している。位はいを持ち込み、水あげを日課にして落ち着いた利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドの配置や高さ、持ち込んだ家具等の配置もその方の身体状況に応じた対応を行っている。居室以外の場所においても、認識違いや判断ミスが最小限になる様な工夫を行い、自立した生活が送れる様に配慮している。		